進路ジャーナル

第 104 号

平成29年５月10日

編集発行

磐城桜が丘高等学校

進路指導部

印刷 ㈱ネクスト情報はましん

千里の道も一歩から！

～国公立大49名、MARCH12名！～

平成二十八年度 卒業生 進路状況

進路指導部

平成二十八年度卒業生の国公立大学合格者数は、国立大学三二名、公立大学一七名の計四九名でした。四九名の内訳は、近隣県の茨城大八名、山形大五名、宇都宮大二名、群馬大二名、岩手大一名、地元福島大学は三名等となっています。また、上位者は筑波大一名、千葉大一名、広島大一名、信州大一名、新潟大二名、宮教大四名合格という結果を残しました。筑波大学などの難関大学合格者も出ましたが、全体として近隣県の国公立大学で手堅く合格を収める傾向は従来と変わっていません。一方、県立医大の看護学部は二名、会津大学は推薦で二名合格と思わしくありませんでした。さて、今回のセンター試験は多くの国立大で必要となる七科目の受験者平均点は、七科目文系型で昨年から八点アップして五六七点（九〇〇点満点）となった一方、七科目理系型で昨年から三点ダウンして五七一点（九〇〇点満点）と対照的な状況となりました。文系は、国語や日本史Bの平均点がダウンしたものの、英語、数学、生物基礎の易化による影響から平均点上昇につながりました。一方理系は受験者の多い化学の平均点ダウンが全体平均点にも影響しました。国公立大学は苦労しなければ合格できないカリキュラムが準備されていること、その地域の学びの拠点として高い評価を受けていることなど、学費の安さ以外のメリットが数多くあります。本校では近年、国公立大学の公募推薦に力を入れていますが、二十八年度はAO・公募推薦での合格者が一九名に上りました。推薦入試は高校三年間の学業・生活の成果がそのまま問われるだけでなく、自分が普段から興味関心を抱いている分野における疑問点や問題点を、大学での学びによってどのように解決し、その後どのようにして社会貢献していくまでを見据えての準備が必要となってきています。

私立大学へは推薦・一般を合わせて延べ三六〇名が合格しました。内訳は、指定校推薦が三七名、公募推薦が一一名、AO・特別入試が一〇名、一般入試が三〇二名でした。最終的に私立大学へ進学した生徒は一九八名で、卒業生全体の六一・八％に上ります。MARCHへの合格者は明治大三、立教大二、中央大三、法政大四の合計一二名でした。日東駒専の合格者は、あわせて三一名となりました。例年に比べて私立大学への出願が少なく、MARCHクラスの一般合格もわずか二名、滑り止めと認識されている日東駒専の合格者は三〇名と激減しました。本校は国公立大学を目指してセンター試験を中心に学習する生徒が多く、出題傾向や形式の異なる私大入試には対応できていない現状が浮き彫りになりました。難関私大への進学を本気で目指すのであれば、国公立大への進学と同様に早期からの周到な準備が必要です。短期大学へは一名、専修学校へは二七名の生徒が進学しました。その多くは保健医療・看護系の学校に進んでおり、明確な目的を持った生徒が技術や資格の取得を目指した結果は例年通りといえます。就職した生徒は八名で、公務員七名、民間企業一名です。公務員の合格率は相変わらず低調で、国家・地方を問わず国公立大学に合格できるくらいのバランスの良い学力が求められているのが現状です。また、高校時代に培った知識教養に加え、決断力と判断力、即戦力として生かせるコミュニケーション能力など、求められている資質は確実に厳しいものになってきています。

■主な大学合格者数（現役生のみ）

卒業年度（平成）			28	27	26
国立大学	北見工業大学				1
	北海道教育大学			1	1
	室蘭工業大学			1	
	弘前大学			1	1
	秋田大学			1	3
	岩手大学		1		
	東北大学				1
	宮城教育大学		4		2
	山形大学	人文学部		1	
		理学部	1		
		工学部	1	3	1
		地域教育文化学部			1
		農学部	3	1	
	福島大学	行政政策学類	1		2
		経済経営学類		2	1
		人間発達文化学類	2	9	6
		共生システム学類			1
	茨城大学	人文科学部	2		6
		教育学部	2	5	2
		理学部		2	
		工学部	3	5	4
		農学部	1		
	筑波大学		1	1	3
	宇都宮大学		2		1
	群馬大学		2		
	千葉大学		1		1
	埼玉大学				1
	電気通信大学				1
	新潟大学		2	1	
	信州大学		1	2	
	静岡大学			2	
	和歌山大学				1
	広島大学		1		
	山口大学			1	
	鹿児島大学		1		
公立大学	釧路公立大学			3	
	青森県立保健大学		1		
	岩手県立大学			1	2
	秋田公立美術大学		1		1
	秋田県立大学		4	1	
	山形県立保健医療大学			1	
	宮城大学		2	1	2
	福島県立	医学部			
	医科大学	看護学部	2	2	1
	会津大学		2		2
	茨城県立医療大学		1	1	1
	群馬県立女子大学				2
	前橋工科大学			3	1
	高崎経済大学			4	1
	埼玉県立大学				2
	横浜市立大学			1	
	都留文科大学				
	新潟県立大学		2	1	2
	長野大学		1		
	名古屋市立大学				
	福井県立大学				
	石川県立大学				
	公立鳥取環境大学		1		
	岡山県立大学			1	
	長崎県立大学				1
合計			49	59	59

卒業年度（平成）		28	27	26
私立大学	青山学院大学	1		
	茨城キリスト教大学	11	12	4
	いわき明星大学	31	31	39
	大妻女子大学			
	学習院大学		2	1
	神奈川大学	4	12	9
	神田外語大学	4		2
	北里大学	5	1	2
	共立女子大学	4	3	1
	慶應義塾大学			1
	國學院大學		1	
	国際医療福祉大学	7	14	11
	駒澤大学	3	15	7
	自治医科大学	2		1
	実践女子大学	3	4	4
	芝浦工業大学	2	6	2
	昭和女子大学	2	4	1
	白百合女子大学	1		1
	女子栄養大学	2	2	
	成蹊大学	3	4	1
	成城大学	1	1	1
	専修大学	3	15	13
	大東文化大学	8	7	6
	中央大学	3	1	2
	津田塾大学	1	1	1
	帝京大学	3	9	13
	東海大学	12	17	14
	東京家政大学	3	1	8
	東京女子大学	1	1	1
	東京都市大学	2	2	
	東京電機大学	1	1	3
	東京農業大学	3	2	2
	東京理科大学		1	2
	東北学院大学	7	14	8
	東北福祉大学	3	16	5
	東北医科薬科大学	1	2	
	東洋大学	11	15	10
	獨協大学	1	6	4
	日本女子大学			4
	日本大学	13	27	21
	文教大学	3	19	7
	フェリス女学院大学		1	2
	法政大学	4	5	3
	明治学院大学	1	3	1
	明治大学	3	7	1
	明治薬科大学	1	1	1
	立教大学	2	2	1
	立正大学	1	1	1
	龍谷大学			2

■国公立大学合格内訳

推薦入試	19
ＡＯ入試	0
前期試験	20
中期試験	0
後期試験	7
別日程	3
二次募集	0
合　計	49

■その他の大学（28年度のみ。短大・専修学校等は除く）

新潟医療福祉大・白鴎大・明星大・京都産業大・高崎健康福祉大・常磐大・跡見学園女子大・桜美林大・京都橘大・国士舘大・駒沢女子大・拓殖大・玉川大・日本体育大・鎌倉女子大・関東学院大・群馬パース大・工学院大・つくば国際大・東北芸術工科大・獨協医科大・日本医療科学大・日本社会事業大・宮城学院女子大・亜細亜大・追手門学院大・大阪芸術大・亀田医療大・川村学園女子大・杏林大・郡山女子大・埼玉医科大・淑徳大・順天堂大・昭和大・昭和薬科大・聖徳大・仙台大・多摩美術大・東京工芸大・東京女子体育大・東京薬科大・名古屋外国語大学・日本赤十字秋田看護大　他

新年度のスタートにあたって

進路指導主事　豊田 浩美

先日の新聞一面に「川俣シルクがエルメスのスカーフに」という見出しが大きく掲載されていました。川俣町の織物会社が製造、販売する世界一薄いシルク「妖精の羽」がフランスの高級ブランド「エルメス」のスカーフに使用され、来年一月頃に各国の店舗に商品として並ぶ見通しで、「川俣シルク」の高い品質と町の絹織物文化が世界へ発信されるという記事でした。エルメスのスカーフは同社の代名詞ともされており、「エルメスに認められたということは川俣シルクが世界一に認められたということ」と大喜びしているとのコメントでした。誰かに認められるために努力した訳でもなく、ただ「世界一のシルクを作りたい」という想いが実を結んだ結果なのだと、私は妙に納得し心を揺さぶられた気がしました。みんなだってそうではありませんか。誰かに褒められたい訳ではなく、自分の将来のために…自分が納得した人生を歩むために地道に努力を続ける。毎年満開に咲き誇っている校庭の桜の花に負けないような、「桜が丘生」としてのプライドを持ち続ける。そういう高校生活であって欲しいと願っています。いつか、世界に認められるくらいの自分になることを目指して…。

ライバルが全国区の大学受験に勝利するためには、自分の将来に向けての目的意識（信念）を持ち続けること、揺るぎのない基礎学力を身につけること、新しい入試制度に関する豊富な知識や情報を備えることが不可欠です。進路指導部では新たな一年の始まりにあたって、次の点を重点目標に定め、生徒のみなさんの進路目標の実現に向けて指導に取り組んでいきたいと考えています。

一．大学をはじめとする進路希望の実現に対応できる学力の育成

二．多様化する入試形態への対応

三．進路意識の高揚と行動実践

毎日の授業はもちろん、課外授業・模擬試験・模試結果を受けての分析会・進路に関する講演会・大学見学会・大学の先生を招いての模擬授業・小論文講座など、全校生徒や各学年を対象にして、たくさんの行事を実施します。詳細は別に配付した進路指導部年間指導計画を参考にしてください。「今、自分は何をするべきか?」を常に考えて、人よりも先んじて行動すること、しっかりと自己管理を行うことを心がけ、心身ともに健康な状態で毎日の学校生活を過ごしてください。

創立百十三年の伝統を誇る地元の進学校として重要なことは、生徒一人ひとりの意識が如何に高い水準で維持できるかにあります。「桜が丘高校の卒業生には、地域を牽引するリーダーとして頑張って欲しい」という期待に応える使命が、我々にはあります。国公立大学へ進学することがすべてではありませんが、残念ながら地方の伝統校である本校は、国公立や都市部の有名私立大の合格者数がそのまま学校の評価につながるという宿命を背負っています。桜が丘高校には、素直で優しい生徒がたくさんおりますが、そこに精神的な強さが加わればもっともっと結果を出せるのではないかと期待しています。多くの先輩から引き継がれる様々な想いの結晶…すなわち伝統校の底力を見せる時は、まさに今この時ではないでしょうか。以下、学年ごとに取り組んで欲しいことについて述べておきます。

■三学年

まずは、自分の進路希望を一日でも早く具体化することです。保護者の方や担任の先生とよく話し合い、どの大学にどんな入試の方法で挑戦するか?早めに目標を定めるほど有利になります。模試の回数も倍増し、月に一～二回実施されます。ただ何となく受験するのではなく、毎回目標を設定したり、模試の後はすぐに自己採点をして弱点補強に努めることで、次の模試の点数や自分の実力アップにつながります。また、結果に一喜一憂することなく、常にプラス思考でこの一年間を乗り切りましょう。なお、センター試験に備えて、マーク模試では正確に自己採点ができるように訓練をしておいてください。本番でのマークミスや段ずれなどの悲劇が昨年は多数報告されました。また、課外授業もすべて希望制となります。自分で自由に選択できるということは、同時に自分の受験に自らが責任を持つことになります。自分に自信を持つために、最後まで信じられる自分でいるために、大切なことは何でしょうか。

■一・二年生

「もっと早くから目標を定めて、しっかり勉強しておけばよかった」と、毎年のように嘆いている先輩がいます。目標を早い時期に決めて、迷うことなく邁進すれば、第一志望の大学に合格できる確率はグッと上がるはずです。なにも特別なことをする必要はありません。毎日の授業をしっかりと受け（予習を行って、理解できなければ復習をちゃんとやる）、与えられた課題を着実にこなし（期限を守って丁寧にやる）、課外授業を大事にする（少しくらい体調が悪いからと休まない）。そして、定期考査や模擬試験に臨むだけです。あとは、受験勉強を乗り越えるだけの気力と体力を毎日の学校生活や部活動、学校行事などで培ってください。二年生は具体的な進路希望の確立を、一年生は規則正しい生活習慣の確立を一日も早く実現できるように、充実した学校生活を送ってくれることを期待しています。

◇　◇

卒業生の3年間を振り返って

旧三学年主任　高木 喜代好

新学期に当たり、今年卒業した生徒たちがどのように歩んできたかを振り返り、磐城桜が丘高校が更なる発展を遂げられることを期待し、原稿を寄せることにする。

「一年生でやるべきことは、学習習慣を定着させること部活動に励むこと」

「二年生でやるべきことは、常識を身につけることと不得意教科を克服すること」

一般的に二年生の修学旅行を終えた段階からいよいよ本格的な受験勉強が始まる。巷では三年生〇学期と言われる頃である。ここまでにある程度の学習習慣をつけておかなければならない。毎年家庭学習時間調査が行われるが、一、二年生はせいぜい一時間を超えるくらいである。一時間といえば、数学の問題を一、二題解いただけで過ぎてしまう時間だ。学校長は、学年プラス二時間を提唱している。なかなか今の桜が丘生には難しそうであるが、全国の受験生はこの程度は勉強している。国数英の授業はほぼ毎日あるはずで、その予習復習をするだけでも二、三時間は過ぎてしまう。英語や数学は繰り返し復習することで記憶として蓄えられていく。家庭での復習は学力を定着させる基礎である。一年の初めから三年〇学期までの間に家庭学習の習慣を身につけることで、スムーズに受験勉強に移行できる。

ところで、高校生はまだ心身の成長過程にある。これから長い人生を歩んでいくうえで、体（健康）が資本だ。その基礎となるのが部活動である。土にまみれながら汗を流し、真夏の太陽のもと必死に頑張り、冬の寒さにも負けず三年間やり遂げることにより、体の成長のみならず、精神的にも逞しく成長していくはずだ。合宿や大会等において鍛えられる精神力は受験にとっても重要になってくる。試合の途中、相手にマッチポイントを取られた段階で負けを認める選手はいない。最後の最後まで諦めずに逆転を信じて戦っている。このような経験は受験勉強でも通用し、ここ一番で予想以上の結果を残すことになる。また、同じ目標を持つ部活動の仲間は、ある意味良いライバルであり相談相手でもある。受験で思うように成績が伸びず、不安が募る時期に互いに励ましあい支えあう大切な仲間が、一緒に汗を流した部活動の仲間である。

また、日頃からテレビのニュースを見たり、新聞を読んだりすることも意識してほしい。社会情勢に目を向けているとさまざまな知識を蓄えることにもつながる。ニュースを見ていると、現在の大学生を取り巻く環境は決して恵まれているとはいえないことにも気づくだろう。むしろ気分を落ち込ませるようなニュースのほうが多いのではないだろうか。そのような状況の中でも大学進学を目指すのであれば、しっかりと目的意識を持たなければならない。さまざまな社会問題を知ることにより、自分が何を学びたいのか、そのためには何をしなければならないのか、社会に出る前にどのような力を身につけなければならないのか、じっくりと考えるきっかけになるだろう。その問題意識は小論文対策につながることもあるだろうし、受験勉強のモチベーションにつながることにもあるだろう。近い将来主権者として行動するときにも必要な知識であることは言うまでもないことである。

さて、二年生も後半になると模擬試験も五教科になってくる。しかし二年生のうちに完成しなければならないのはやはり国数英の三教科である。二科目までは何とかそろうが、三教科そろえることが非常に難しい。一教科でも得意なものがあればそれが強みにならないこともないが、逆に一教科でも極端に足を引っ張る科目があれば、現実問題として高得点は期待できない。二年生のうちに不得意科目を克服し、人並みの点数を取れるようになっておかなければならない。結局この三教科をそろえることができず、教科数を減らし最終的に私立大学を目指したとしても成功には至らないケースが多々あった。一旦逃げることを考えてしまうと、その途端に成功は遠のいてしまう。

三年生は、理社の負担をいかに減らすか。最後まで頑張りぬく自信と精神力

二年までの三教科の完成が遅れると理社への影響が出てくる。理社は時間をかけた分だけ点数に反映されやすい教科だ。特に文系はその傾向がある。どうしても勉強時間の絶対量の不足から三教科の完成時期が遅れてくると、思うほどは理社に時間をかけられず、未完成のままに受験に突入となる。これを防ぐには理社はできる限り授業で完結するべきである。結局は暗記科目という位置づけになってしまうが、理解していない単語は覚えていても使えない。授業でどこまで理解できるかがポイントだ。

最後に、残念ながら精神面の弱さから三年まで部活動を続けた生徒の中に指定校推薦を希望する者が多かった。確かに普通であれば六月になると三年生は部活動を引退する。なかには県総体にも参加し七月や八月まで活動する生徒もいるが、大多数は七月までには受験勉強に突入している。センター試験まではまだ半年あるのだが、先生方のアドバイスや自分の実力を信じ切れずに、易き方に流れてしまう。勉強を始めてからその成果が表れるまでに三か月を要すると言われている。早々に部活を引退した生徒が徐々に成績が伸びてくるのがこの時期である。友達の成績が伸び始めた時期に、ようやく受験勉強のスタートを切るのだから不安になるのも無理はないかもしれないが、少々弱気な生徒が多かったように思う。その証拠に部活動を最後までやりきり、受験勉強も最後まで真剣に取り組んだ生徒たちは皆センター試験では上位の成績だった。部活動での力は受験にも通用するのである。自分の力を信じて諦めずに戦ってほしい。

平成二十八年度 大学入試センター試験概況分析

■センター試験概況

二〇一七年度の大学入試センター試験は、一月一四日・一五日の両日に実施されました。当日は各地で雪に見舞われ、試験開始を遅らせるなどの対応がとられた地域もありました。志願者数は五七五、九六七人（前年比一〇二・二%）、本試験の外国語受験者数も前年比一〇一・九%といずれも増加しました。大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳をみると、現役志願者数は昨年から九、五〇七人増の四七一、八四二人（前年比一〇二・一%）、既卒生志願者数も二、六六四人増の九九、一一八人（同一〇二・八%）といずれも増加しました。このうち現役志願者数の増加については、高校卒業見込者が増加したことに加え、近年国公立大で推薦・AO入試にセンター試験の成績を利用する大学が増加していることも要因です。

二〇二一年から導入される大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を中心に、現在大学入学者選抜について盛んに議論が交わされています。その主眼は思考力・判断力・論理的思考力を評価する試験の導入であり、既に現行のセンター試験の問題においてもその傾向があらわれています。例えば今年は、「数学Ⅰ・数学A」で二つの分野の融合問題が出題されました。また、地歴Bの各科目では、いずれもグラフや図表、統計資料などの読み取りが必要な問題が出題されました。このように知識だけでなく思考力を要する設問が増えています。

■科目別実施状況

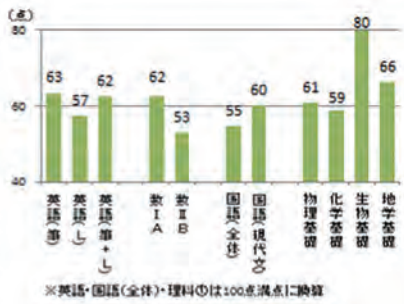
【図表】は、河合塾が実施した自己採点集計参加者の平均点を集計したものです。英語では「筆記」の平均点がアップしました。出題傾向は昨年とほぼ同じですが、文法問題はやや易化しました。数学は「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」ともに平均点が上昇しました。一方、国語は「現代文」の難易度が上がり、平均点は前年から二三点ダウン。評論は科学のあり方について論じた硬質な内容であり、本文量も昨年に比べ七〇〇字以上増加しました。「古文、漢文」の平均点もダウンしましたが、こちらは出題内容の難化と言うよりも現代文に時間をとられた結果と考えられるでしょう。

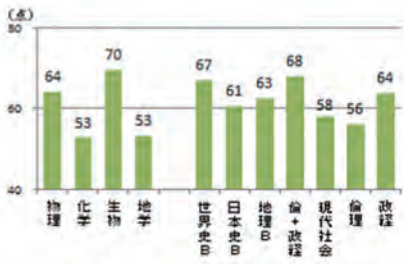
理科では理科①と理科②で状況が異なります。主に文系生が受験する理科①では「生物基礎」の平均点が四〇点と非常に高くなり、満点を取れた受験生も多くいました。文系生の多くが化学基礎＋生物基礎の組合せを選択しますが、この組合せの平均点は約七割になっています。文系では理科で高得点が取れた受験生が多くいたことでしょう。逆に理系生の多くが受験する理科②では「化学」の平均点がダウンし、五三点になりました。文系生に比べ、理科で思うように得点できなかったと感じる受験生が多かったのではないでしょうか。また、地歴・公民は、「日本史B」で平均点がダウン、「倫理、政治・経済」でアップしました。しかし、受験者の多い地歴B科目と「倫理、政治・経済」の四単位科目はいずれの平均点も六割を超えています。

【図表】主要科目・総合型平均点

		教科・科目	昨年	今年	差
外国語		英語（筆記）	115.6	126.7	+11.1
		英語（リスニング）	31.3	28.7	−2.6
		英語（筆記+リスニング）	117.8	124.7	+6.9
数学	①	数学Ⅰ・数学A	56.7	62.4	+5.7
	②	数学Ⅱ・数学B	48.7	53.0	+4.3
国語		国語（全体）	131.7	109.3	−22.4
		国語（現代文）	71.9	60.1	−11.8
理科	①	物理基礎	35.3	30.4	−4.9
		化学基礎	27.5	29.3	+1.8
		生物基礎	28.2	40.0	+11.8
		地学基礎	34.3	33.1	−1.2
	②	物理	62.7	64.2	+1.5
		化学	55.7	53.1	−2.6
		生物	64.7	69.5	+4.8
		地学	40.7	53.2	+12.5
地歴・公民		世界史B	68.5	67.0	−1.5
		日本史B	66.8	60.7	−6.1
		地理B	60.5	62.6	+2.1
		倫理政治・経済	61.8	67.9	+6.1
		現代社会	55.3	58.0	+2.7
		倫理	52.9	56.0	+3.1
		政治・経済	60.7	63.8	+3.1
総合		7科目文系型	558.9	566.6	+7.7
		7科目理系型	573.5	570.6	−2.9

※7科目文系型：外・数（2科目）・国・理・地公（2科目）
※7科目理系型：外・数（2科目）・国・理（2科目）・地公





こう変わる！ 大学入試

～2020年度からセンター試験に代わる試験を実施～

大きく変わる20年度に先立ち、16年度中に各大学は「入学者受け入れの方針」を定めることが義務付けられた。それには、入学者にどんな学力を求めているかが明記される。程度の差はあれ、各大学の入試問題や形式にも影響しそうだ。

●全国共通の試験

大学入試センター試験

- 6教科31科目の試験を実施
- マークシートを使った選択式の試験
- 年1回実施
- 一点刻みの結果を各大学に提供

➡

2020年度～ 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）

- 教科の試験に加え、複数の教科・科目を組み合わせた出題をする試験や、教科を超えた総合的な出題をする試験を実施
- 選択式に加え、記述式を導入。コンピュータ上で答える形式を前提に検討
- 年に何回か実施し、選んで受けられるようにする
- 結果は、点数ではなく、レベル別で各大学に提供

●各大学の選抜方法（2015年度から順次改革）

- 各大学は、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）を明確にして、教育内容や育てたい学生像にあった入試を実施するよう求められる
- 知識・技能や思考力・判断力・表現力に加え、主体性・多様性・協働性を重視した選抜に
- 「大学入学希望者学力評価テスト」の結果に加え、大学ごとに小論文、プレゼンテーション、集団討論、面接、推薦書、調査書、資格試験などを取り入れて選抜する
- 一般入試、推薦入試、AO入試の区分は見直す

今、すべきこと

第一学年主任　猪　茂　男

桜咲く中で入学式を行い、高校生活がスタートしました。一年生の皆さんは緊張の日々から、だんだんと新生活に慣れた頃ではないでしょうか。三年後には大学入試を終え、夢と希望に満ちあふれた顔で桜を愛でていられたらと願います。

入学式に先立ち、四月五日、六日に合同学習会が行われました。国語・数学・英語の教科オリエンテーションと進路手帳の使い方について学びました。国・数・英は主要三教科であり、単位数が多く授業の進度もかなり速くなります。そのために予習・授業・復習のサイクルをしっかりと身につけるようにしましょう。そして、進路手帳を使って自己管理をしっかりと行い、時間を上手に使うように心がけましょう。

来るべき大学入試に向けて、高校時代にどのようなことをすればいいのか。

まず自分の進路を考えましょう。自分の将来像を思い浮かべましょう。自ずと受験する大学が見えてくるはずです。ただ、将来像といっても自分の頭の中の「知っている世界」でしか推しはかれません。その「知っている世界」を広げることが大切です。そのために大学の模擬授業を受けたり、大学訪問をしたり、職業人の話を聞いたりします。個人的に興味のある大学のオープンキャンパスに足を運ぶことも大切です。いろいろなことを見聞きし、自分の世界観を広げるように努めましょう。

次に学力を伸ばすことです。普段の授業が学力を伸ばす一番の近道です。予習で疑問点を見つけ、授業で理解し、復習で定着させるという根気強い取り組みを実践して欲しいと思います。授業と受験勉強はまるっきり別物と考えている人がいますが、そうではありません。授業の延長上に受験勉強があります。授業でしっかりと基礎基本を身につけた上で難しい入試問題を解くことができるのです。

国・数・英では週末ごとに課題が出されるので、しっかりと行い基礎学力を定着させましょう。

部活動や委員会活動、ボランティア活動に積極的に参加することも大切です。このような活動は君達にとってプラスになり、人間の幅が広がることにつながります。高校は社会に出るための準備をする場でもあります。あいさつをしっかりと行い、積極的に物事に携わる、そういう姿を期待します。

四月の新聞に「英誌が日本の大学ランキングを発表　一位は東大」という記事がありました。読んでいくと二位は東北大、三位は京大、四位は名古屋大、東工大と続いており、上位一五位までに国立大が一二校占めていました。会津大も二三位に入り健闘しています。このランキングは教育リソース・教育満足度・教育成果・国際性の四分野一一項目から成るデータを基に、各大学の「教育力」を総合的に評価したものだそうです。新入生の皆さんは大半が国公立大を希望しています。これからの三年間の努力が花開いて「教育力」の高い大学で学ぶことができるようお互いがんばりましょう。

希望進路の実現に向けて

第三学年主任　野　口　八重子

三年生の皆さん、いよいよ高校生活も最後の一年となりました。入学以来思い描いてきた自己の進路目標達成に向けて、全力を傾けていきましょう。そのためには、「計画を立てて実行すること」と、「情報収集をすること」です。

まず、一年を三期（四～八月、九～十一月、十二～三月）に分けて学習計画を立てましょう。とにかく夏休みまでは、基礎力養成です。二年までで教科書が終了している科目については、今までの学習内容を総復習するように計画し、実施していきます。その際に、「英単語を頑張る」などの抽象的なものではなく、「データベースのレベル四を、六月までに三回繰り返す」など何をどのように学習していくか、具体的に計画することが大切です。また、授業でも演習という形式で復習していくので、授業の予習復習をペースメーカーとするのもよいでしょう。まだ教科書が終了していない科目については、夏休みまでにとにかく一度、自分で教科書を読み終え（やり終え）てください。そして夏休みが明けたら、秋は実力応用力養成です。大学の過去問題集（赤本）などを使って、実践問題に取り組んでいきましょう。十二月になったら、いよいよ試験も間近です。時間を計って問題を解くなど、本番を意識しながら学習しましょう。

次に、これらの学習と平行して行ってほしいのが「情報収集」です。第一志望校は確定していますか？その大学を軸に、同じ学習方法で受験できる大学を二～三校考えておいてください。志望校の受験科目や配点に応じて、各科目に割り当てる学習時間にも差異が生じます。二次試験まで使う科目なら、それなりの時間をかけて勉強しなければなりません。特に、AOや推薦での受験を考えている人は、受験の時期が早いことや小論文・面接などの対策も必要となるので、今から最新の情報を集め、準備をしておいてください。

このように、受験勉強だけを考えても高校入試の時とは比べものにならないほど長い時間と多くの準備が必要です。途中投げ出したくなることもあるかもしれませんが、大人の私から言わせれば受験ほど楽なものはありません。「自分がやればいい」だけのことなのですから。“努力は人を裏切らない”自分にどれだけ自信をつけられたか（どれだけやったか）が、すべてです。「つづける力」、「あきらめない心」、そして「お互いに成長しあえる仲間」とともに高校生活の集大成として、この一年頑張っていきましょう！

二学年こそ、全力疾走の一年に！

第二学年主任　小　沼　仁　一

いよいよ二年生となりました。高校三年間を考えると、進路実現のためにはこの二学年が最も大切な年だと思います。学校生活にも慣れ、生活全般に亘り一年次のように初めて経験することもほとんどなくなり、自ら計画し自らの意志でコントロールしながら思いのままに物事に当たれる一年だと思います。受験勉強を考えても同じです。余裕を持って自分のやりたいように様々な勉強にチャレンジできるのは二年次ぐらいです。これが三学年になると、模擬テストと課外を中心とした問題演習と復習の繰り返しで手一杯の状態となります。部活動を引退してから、急に本気で「勉強しよう！」と思っても、それまでの学習の量や方法の蓄積がなければ、やるべきことが山積して行くばかりで、勉強中心の生活に馴染めず効率も上がらず思うように成績が伸びずに三年生が終わってしまうという人は少なくありません。そして何より、全国の受験生が本格的に勉強を始めるので、当然、それほど大きな成績の伸びは期待できないものです。この二年次から、今から、できる所から、できるだけ早く受験を意識した勉強を始めることが、国公立大学や人気の私立大学合格には不可欠です。

さて、二学年ということですが、この時期は中間の学年です。よく中だるみ・しやすいと言われる年です。是非、「勝負」における「中盤」の意味（マラソンレースの全行程をスタート、中盤、ゴールに三区分したとします）を考えてほしいと思います。スタート直後ある程度の距離までは大きな集団をつくっていることが多いと思います。また、ゴール付近になると最後の頑張りによりそれまでの差がさらに拡大するという印象はあまりなく、次々と選手がゴールして行く感があります。しかし、中盤に注目すると、選手達が一人また一人と次々とトップ集団から脱落してしまい、大よその勝負は中盤で決まってしまうかの印象が残ります。あくまでも私の一見方ですが、この中盤での位置の保持が非常に大切で、中間走でできるだけ脱落せずトップ集団と大きく差がつかなければ、そこそこの良い結果は出せるものだと考えられないでしょうか。そして、学習においても、この中盤の二学年は、油断すると大きく差がついてしまう二年であり、脱落しないよう全力で努力して食らいついて行くことが進路目標の実現には不可欠ではないでしょうか。

就職の適性試験等でよく利用される「クレペリン（精神）検査」という著名な心理テストにおいて、エミール＝クレペリンが見つけ出した“作業曲線”によると、やはり最初と終盤の計算量に対し中盤は落ち込むのが一般的とされています。二学年の中だるみは、この作業曲線とかなり共通する要因があると私は思います。

二学年は、学習等の様々な活動が停滞しやすい危険性をかなり含んでいると考えます。それだけに、各自の進路実現のための最短コースから外れないように脱落しないように常に強く意識し、この一年を気の緩みなく全力疾走しなければなりません。そして、それができれば、三年次になって進路選択の幅がそれだけ大きく拡がることは間違いないです。二年生全員に期待しています！